

岩屋中だより

令和6年7月8日 NO9

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

命を考え、過去の大雨災害について知る7月。

～一人一人に与えられた大切なありがたい命～

教育週間が終わりました。教育週間では、過去長崎県で起こった悲しい出来事を忘れず、命の大切さを改めて学び、尊い命を大事にしようという気持ちを新たに作る期間として位置づけられています。

本校も、この週間に、被爆体験講話や生徒総会、メディア講演会、SNSノート長崎を使用した道徳の公開授業などを実施しました。土曜授業で行われたメディア講演会では、メディアの使用時間と学力の関係や、健康面とメディアの使用時間の関係、SNS発信の恐怖などについて話がありました。講演会の終盤には、「持つ責任」「持たせる責任」という話もありました。

命を大切にすることとは、互いに支え合う社会の創造を続けていくことだと思います。命の重さは、地球の重さより重いと云います。この世に誕生できたことは、なかなかあり得ないこと＝有難いことです。命あることは「有難し＝ありがとう」という認識を持ち続けましょう。

7.23 長崎大水害 ～梅雨末期の大雨～

長崎市では、昭和57年（1982年）7月23日に長崎大水害が起こりました。今から、42年前の出来事です。長崎市では、午後10までの3時間で、300ミリを超える豪雨となり、長与町役場では、午後8時までの1時間に187ミリの雨を計測し、1時間雨量としては日本観測史上最大となっています。

土石流や山崩れなどが各地で発生し、国道34号線の寸断など長崎県では、多くの犠牲者と被害をもたらした水害でした。一晩で、299名の方が亡くなるという未曾有の災害でした。県中総体の直前の災害で、長崎市選手団は、この水害により県中総体への派遣を取りやめました。長崎市の松山の陸上競技場には、水害で被害を受けた方々の家財などが集められ、いっぱいになったということを記憶しています。浜の町アーケードも地下は水没し、アーケードの道に水で動かなくなかった車が何台も流れてきたり、眼鏡橋も崩れてしまったことを記憶しています。

梅雨末期の大雨は、私たちにとって、関係ないでは済まされない自然災害です。災害に備えるためには、災害に係る知識や情報をもつことが大切だと思います。「備えあれば憂いなし」です。この機会にぜひ、防災マップ（ハザードマップ）で住んでいる地域を確認してみましょう。長崎市のホームページから見るができます。氾濫危険、土砂災害の危険がわかります。社会科では、日本の気候の学習うに併せて日本における自然災害を学習しますが、その中に集中豪雨が取り上げられています。私たちの社会は、土が少なくなり、コンクリートばかりです。そのため、氾濫の危険性がある河川や用水路には近づかないことが重要です。また、道路では、大量の雨水が下水管に流れ込み、マンホールのふたが浮き上がったり、ふたが外れてしまうこともあるので、冠水した道路には要注意です。そして、地下や半地下では、浸水によって、逃げ遅れることがあるそうですから、逃げるタイミングも逃してはいけません。常日頃から、災害に起こった時にどう行動するかを考えておくことは、災害から身を守るうえで大切なことだと感じます。